

道の変遷

- ① 元和5年（1619年）
浅野氏広島入部に伴い、代官所が置かれた西城が政治上の要所となったため、東城と西城を結ぶ道が本筋となり備中路と言う。従って東城から帝釈經由の庄原方面に向かうかっての道は、備中故路と呼ばれるようになった。
川西村境札建―魚切橋―菅村境鳴之瀬橋―岩こう坂―才之峠―川島村境土橋―松ヶ峠―保田村境才之峠―滝ノ上り口―大佐村境鹿深峠
- ② 明治16年（1883年）
東城西城間車道開通幅員10尺
二軒出店―松ヶ峠間歩掘削―権現峠―三の谷藤木―鹿深山中腹―大佐三の原
- ③ 明治18年（1885年）
二軒出店―牧ヶ峠―小出居―棒地 車道開通幅員9尺
- ④ 明治29年（1894年）
中筋道路開通幅員12尺
山中―柳田―米子―寺田―友永―小出居―次石―田黒―狐峠
- ⑤ 明治34年（1899年）
東城西城間道路改修幅員12尺
魚切―鳴瀬橋―ヒジ曲がり―鳥越上―二軒出店―的場―牧ヶ峠―大亀谷―寺田―米子―保田山手新道―権現峠―藤木より新道―西城